

## イ 教科「日本語」のねらい

### (ア) 研究主題名

『美しい日本語や伝統文化のよさを味わい、生活に結びつけながら考え、互いの考えを話し合う子どもの育成』  
～知りたい・使いたい・伝えたい～

### (イ) 主題設定の理由

教科「日本語」では、これまで、ことば遊びや詩歌、論語など日本で親しまれてきた言葉に触れたり、今も受け継がれている伝統文化や礼儀作法を体験したりすることで、日本人としての自覚を再認識するとともに日本の文化や心を大切にしていきたいという意識を育んできた。

鳥栖市の進める教科「日本語」とは、日本の言語や文化、礼儀作法に触れ、そのよさを「楽しみ」「親しみ」「味わう」教育として導入された。小学部では、教科「日本語」を楽しもうという考えから、クイズやゲームなど交流活動を多く取り入れた結果、どの授業においても、『コミュニケーションを楽しみながら互いの考えを話し合う子ども』の姿が見られ、教科「日本語」を好きだと答える子どもも増えた。また、授業にユニバーサル・デザインの視点を取り入れることで、教師の意識が変わり、学びの見通しをもたせる工夫や活動のルールなどの工夫などたくさんのアイデアが出され、どの子ども活動に主体的に参加できるようになってきた。

しかし、学ぶこと自体に興味をもち、意見を交流したり考えを深めようとしたりする主体的な学びとしては課題が残る。高学年になると、外国語活動や総合的な学習で、地域の外国の方々と触れ合う機会も増え、改めて日本について考えたり伝えたりしながら、教科「日本語」で学んだ知識や経験を活用する場面も多くなる。他教科との関連の中で課題を見つけたり、対話の中に教科「日本語」で学んだことを生かしながら根拠や理由を示したり自分の考えを伝えたりする主体的な学びが、これからの課題であると考えられる。

元来、教科「日本語」の内容は、私達の暮らしに役立つものであり、日本人の精神の礎である。このように、教科「日本語」で学んだことを生活に結びつけて考えを広げていくことは、先人の知恵や教えを尊び、日本人としての自己意識（アイデンティティ）を高めることにつながると思われる。

そこで、研究主題を『美しい日本語や伝統文化のよさを味わい、生活に結びつけながら考え、互いの考えを話し合う子どもの育成』～知りたい・使いたい・伝えたい～とした。

### (ウ) 研究目標

- a どの子ども関わることができる日本語活動を工夫することで、日本語の響きやリズムを楽しく味わせたり、日本人に昔から受け継がれてきた精神に気付かせたりしながら、日本人としての自覚や誇りを培う。
- b 学んだことを生活と結びつけながら考え、視野を広げたり伝えたりすることができる。
- c 学んだことを「見える化」することで学びを共有化したり、友達の意見や考えを取り入れたりして考えを深めることができる。

### (エ) 研究の視点

- a UDを生かした環境・支援の工夫
  - (a) 日本語活動の目的を明確にし、「焦点化」「視覚化」「共有化」の3つを柱にした授業作り
  - (b) ねらいの焦点化、教材・学習の流れの視覚化
  - (c) 子どもの自信につながる支援の工夫
- b 進んで関わるができる学びの工夫
  - (a) 学びの「見える化」
  - (b) 課題解決に向けた主体的・協働的な学びの工夫
  - (c) 友達との対話を工夫した話し合う活動
- c 教科「日本語」を日常生活へつなぐための工夫
  - (a) 家庭学習の工夫
  - (b) 家庭、地域との連携